



Title	森藤一史教授 小野清美教授 略歴・主要著作目録
Author(s)	
Citation	阪大法学. 2014, 64(3-4), p. 361-371
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/71529
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

森藤
小野

一史教授
清美教授

略歴

・主要著作目録

森藤一史教授 略歴

昭和三年	四月二四日	岡山県に出生
昭和四六年	三月	岡山大学法学部法学科卒業
昭和四八年	三月	名古屋大学大学院法学研究科修士課程修了
昭和五一年	三月	名古屋大学大学院法学研究科博士課程単位修得退学
昭和五一年	四月	名古屋大学法学部助手
昭和五一年	十月	大阪外国語大学外国語学部講師
昭和六一年	一月	大阪外国語大学外国語学部助教授
平成八年	一月	大阪外国語大学外国語学部教授
平成一九年	十月	大阪大学大学院法学研究科教授
平成二〇年	四月	大阪大学外国語学部兼任教員（平成二六年三月まで）
平成二三年	四月	大阪大学大学院言語文化研究科兼任教員（平成二六年三月まで）
平成二四年	四月	大阪大学大学教育実践センター兼任教員（平成二六年三月まで）
平成二六年	三月	大阪大学全学教育推進機構兼任教員（平成二六年三月まで）
平成二六年	四月	大阪大学定年退職
		大阪大学名誉教授

主要著作目録

I 著書

- 『近代世界システムの歴史的構図』（共著）
『現代社会と国際関係』（共著）
『近代とは何であったか——比較政治思想的考察』（共著）
『横井小楠のすべて』（共著）
『近代日本のアポリア』（共著）
『ガイドブック 国際関係論』（共著）
『概説 日本政治思想史』（共著）
『グローバルゼーションとアメリカ・アジア太平洋地域』（共著）

II 論説

- 『近代化』論から『変動』論へ」
「ウォードの『日本近代化』論」
「横井小楠における思想の歴史的 성격」
「横井小楠の『国際関係』観——『夷虜応接大意』を中心に」
「安政年間における横井小楠の『国際関係』観」
「『日本近代化』論と伝統」
「佐久間象山と吉田松陰密航事件（上）」

- 溪水社
大阪外国語大学
大学教育出版
新人物往来社
晃洋書房
大阪大学出版会
ミネルヴァ書房
大学教育出版
一九九三年
一九九七年
一九九七年
一九九八年
二〇〇一年
二〇〇八年
二〇〇九年
二〇〇九年

- 法政論集第六五号
法政論集第六八号
法政論集第七七号
『国際関係論の総合的研究』
一九八三年度版
『国際関係論の総合的研究』
一九八四年度版
日本の科学者第二〇卷第十一号
『国際関係論の総合的研究』
一九八五・八六年度版
一九七五年
一九七六年
一九七八年
一九八四年
一九八五年
一九八五年
一九八七年

「佐久間象山と吉田松陰密航事件（下）」

『国際関係論の総合的研究』

一九八七年度版

一九八八年

「佐久間象山の『神州』観——天保13年『海防八策』前後を中心に」

『国際関係論の総合的研究』

一九八八年度版

一九八九年

「横井小楠の政治改革構想」

近代熊本第二四号

一九九三年

「『アジア的価値』と西洋文明——『儒教ルネッサンス』を手がかりに」

『アジア・太平洋圏』文明の構築をめざして（大阪外国語大学）

一九九八年

「佐久間象山の学問方法論」

『貝田守教授停年退官記念論文集』

一九九八年

「佐久間象山の『国際関係』認識——『夷狄』観を中心に」

『国際社会への多元的アプローチ（1）——栗山靖司教授退官記念号』

二〇〇一年

（大阪外国語大学）

「横井小楠と『万国公法』」

『国際関係の多元的研究——東泰介教授退官記念論文集』

二〇〇四年

（大阪外国語大学）

「横井小楠『時務策』における『民を憐むの心』」

近代熊本第三〇号

二〇〇六年

「横井小楠における『公共』思想と実践」

横井小楠研究年報第三・四合併号

二〇〇七年

「『公共の政』による交易——横井小楠の政治改革構想」

『別冊環』第一七号

二〇〇九年

「佐久間象山の危機意識——防衛は『彼を知る』を実践すること」

人間会議二〇一〇夏号

二〇一〇年

III 書評

渡辺治『戦後政治史の中の天皇制』

日本の科学者第二五巻第九号

一九九〇年

山崎益吉『横井小楠と道徳哲学』

高崎経済大学論集第四六巻第一号

二〇〇三年

三上二夫『幕末維新と松平春嶽』

横井小楠研究年報第三・四合併号

二〇〇七年

IV その他

『学界展望一九七六年 政治思想（日本）』

日本政治学会年報一九七七年版

一九七九年

『学界展望一九七七年 政治思想（日本）』

日本政治学会年報一九七八年版

一九八〇年

『西洋の衝撃』による政権交代と国民統合——幕末日本の場合』

『世界システム』の変容と国民統合』

一九九二年

（大阪外国語大学）

『横井小楠の政治改革構想——佐久間象山との比較において』

熊本近代史研究会会報第二六五号

一九九二年

『年表・解題 日本』

『1940年代のアジア』

一九九五年

（大阪外国語大学アジア研究会）

『研究会会員による横井小楠研究一覧』（共編）

全国横井小楠研究会年報第一号

二〇〇三年

『「戦争をする国」に』

おおさかの住民と自治第三〇二二号

二〇〇四年

『防災講演会を開催して——『文化財を守る』ことの意味』

（NPO法人「災害から文化財を守る会」情報ネット第一二二号

二〇〇五年

公共的良識人第一九〇号

二〇〇七年

『小楠をめぐる講習・討論の場へ参加した感想』

全国横井小楠研究会ニューズレター

二〇〇九年

『横井小楠と佐久間象山——勝海舟をはさんで』

二〇〇九年版

二〇〇九年

『新刊紹介…野口宗親『横井小楠漢詩文全釈』、

横井小楠と変革期思想研究第六号

二〇一一年

堤克彦『横井小楠の実学思想』』

小野 清美教授 略歴

昭和三年	六月二〇日	徳島県に出生
昭和四年	三月	徳島県立城南高等学校卒業
昭和二年	四月	東京外国語大学外国語学部ドイツ語科入学
昭和四六年	三月	同 卒業
昭和四六年	四月	東京都立大学人文学部 聴講生（昭和四七年三月まで）
昭和四九年	三月	東京都立大学人文学部史学科卒業
昭和五一年	三月	名古屋大学大学院法学研究科修士課程修了
昭和五四年	三月	名古屋大学大学院法学研究科博士課程中途退学
昭和五七年	四月	名古屋大学法学部助手
昭和六〇年	四月	大阪外国語大学外国語学部講師
昭和六三年	四月	大阪外国語大学外国語学部助教授
平成 七年	一月	ビレフェルト大学私費研修（平成元年三月まで）
平成 七年	四月	大阪外国語大学外国語学部教授
平成 九年	三月	ミュンヘン大学文部省在外研究（平成八年一月まで）
平成 一七年	四月	博士（法学） 名古屋大学
平成 一九年	一〇月	京都大学文学研究科非常勤講師（平成一八年三月まで）
平成 二三年	四月	大阪大学大学院法学研究科教授
平成 二五年	四月	岡山大学法学部非常勤講師（平成二三年九月まで）
平成 二六年	三月	岡山大学法学部非常勤講師（平成二五年九月まで）
平成 二六年	四月	大阪大学定年退職
		大阪大学名誉教授

I 著書

(単著)

『テクノクラートの世界とナチズム——「近代超克」の

ユートピア——』(第九回 和辻哲郎文化賞学術部門受賞)

『保守革命とナチズム——E・J・ユングの思想と

ワイマル末期の政治——』

『アウトバーンとナチズム——景観エコロジーの誕生——』

(共著)

『近代世界システムの歴史的構図』(松田武・阿河雄二郎編、第二章

「ヨハン・プレングの「戦争哲学」と社会主義論」を執筆)

『ドイツ社会史』(矢野久／アンゼラム・ファウスト編、

第二章「階級社会から大衆社会へ」を執筆)

II 論説

ドイツ革命(一九一八—一九一九年)における「社会化」運動の研究

ヴァルター・ラーテナウの社会的政治的改進黨構想

第一次大戦後ドイツの戦後再建構想をめぐる政治的社会的諸対抗

——ラーテナウ構想の挫折——

マックス・ウェーバーと社会化

——革命期における政治論の一考察——

ビスマルクと議会制——政策転換期を中心に——

社会民主主義と利益代表

ミネルヴァ書房

一九九六年

名古屋大学出版会

二〇〇四年

ミネルヴァ書房

二〇一三年

溪水社

一九九三年

有斐閣

二〇〇一年

名古屋大学法政論集 第七九号

一九七九年

名古屋大学法政論集 第八四号

一九八〇年

名古屋大学法政論集 第八七号

一九八一年

名古屋大学法政論集 第九九号

一九八四年

名古屋大学法政論集 第一一〇号

一九八六年

大阪外国語大学学報 第七五卷第三号

一九八七年

大戦・革命期におけるドイツ社会民主党の議会制論と

「経済議会」構想

あるテクノクラートの悲劇

—— W・v・メーレンドルフ研究 —— (上)

あるテクノクラートの悲劇

—— W・v・メーレンドルフ研究 —— (下)

W・v・メーレンドルフの社会主義像

ヨハン・プレングの戦争哲学と社会主義論

ボイカートと近代

ヴァルター・ラーテナウの時代批判——ドイツ・ユダヤ人として——

「ポストモダン」と「特有の道」論

オールドー自由主義の時代批判とナチズム観

—— ヨーロッパ的文脈での考察 ——

オールドー自由主義思想の形成

—— 自由主義の破局からその刷新・再生へ ——

ナチズムと近代——田村栄子氏の「批判」に應える—— (共著)

E・J・ユングの思想と帝政期フェルキッシュ運動

—— 竹中亨氏への反論 ——

大阪外国語大学論集 第二号 一九八九年

名古屋大学法政論集 第一三七号 一九九一年

名古屋大学法政論集 第一三八号 一九九一年

名古屋大学法政論集 第一三九号 一九九二年

科研報告書『「世界システム」の変容 一九九二年と国民統合』(代表・松田武)

ボイカート『ワイマル共和国』(名古屋大学出版会) 一九九三年

名古屋大学法政論集 第一五四号 一九九四年

大阪外国語大学ドイツ語研究室編

Sprache und Kultur 第二九号 一九九六年

科研報告書『グローバル・ヒストリ 二〇〇〇年

——「の構築と歴史記述の射程」—— (代表・松田武)

土地制度史学 第一七二号 二〇〇四年

歴史評論 第六五二号 二〇〇四年

西洋史学 第二二二号 二〇〇六年

ワイマル共和国研究あるいは学問的議論の深化のために

—— 田村・星乃編『ヴァイマル共和国の光芒』の

いくつかの章によせて——

第三帝国におけるアウトバーン建設と「自然」

—— アルヴィン・ザイフェルトを中心に——

ドイツ新自由主義の誕生とワイマル末期の政治

「科学的経営管理」運動とナチズム

—— D I N T A からドイツ労働戦線へ——

「秩序自由主義」における対ナチ協力と抵抗 (二)

「秩序自由主義」における対ナチ協力と抵抗 (二・完)

ナチズムと景観エコロジー

ナチズムと「緑」の問題をめぐって—— 藤原辰史氏に応答する——

III 翻 訳

デートレフ・ポイカート『ワイマル共和国

—— 古典的近代の危機——』(共訳)

デートレフ・ポイカート『マックス・ウェーバー

近代への診断』(共訳)

ペーター・シェットラー編『ナチズムと歴史家たち』(共訳)

フランク・ロタール・クロル『ナチズムの歴史思想』(共訳)

大阪外国語大学ドイツ語研究室編

Sprache und Kultur 第四〇号

名古屋大学法政論集 第二一七号

グシヒテ 第一号

阪大法学 第五九卷第三・四号

阪大法学 第六〇卷第四号

阪大法学 第六〇卷第五号

ドイツ研究 第四五号

阪大法学 第六三卷第三・四号

名古屋大学出版会

名古屋大学出版会

名古屋大学出版会

柏書房

名古屋大学出版会

名古屋大学出版会

名古屋大学出版会

名古屋大学出版会

名古屋大学出版会

名古屋大学出版会

IV 書評

Einige Probleme zu der Parlamentarischen Demokratie in Deutschland —
Rezension zu H. A. Winkler, Liberalismus und Antiliberalismus.
Studien zur politischen Sozialgeschichte des 19. Und 20.
Jahrhunderts, Göttingen 1979.

ジェフリー・ハーフ『保守革命とナチズム』

北住炯一『ドイツ・デモクラシーの再生』

ユルゲン・コッカ編著『国際比較・近代ドイツの市民』

シュミット問題・ドイツ現代史の立場から

——佐野誠『近代啓蒙批判とナチズムの病理』をよんで——

雨宮昭彦著『競争秩序のポリティクス』

——ドイツ経済政策思想の源流——』

ヨースト・ヘルマンド『理想郷としての第三帝国』

川越修『社会国家の形成——二〇世紀社会とナチズム——』

川越修・辻英史編著『社会国家を生きたる——20世紀ドイツにおける

国家・共同性・個人——』

V その他

(研究ノート)

ビスマルクと議会制——若干の補論——

(辞典項目執筆)

ナチズム (猪口孝・大澤真幸・岡沢憲夫・山本吉宣・S・R・リード

編集『政治学辞典』)

名古屋大学法政論集 第九一号

一九八二年

日本の科学者 第一二六号

一九九一年

日本の科学者 第一三〇号

一九九五年

社会経済史学 第六七卷第三号

二〇〇一年

創文 第四六二号

二〇〇四年

歴史と経済 第四九卷第一号

二〇〇六年

ドイツ研究 二〇〇五年三月

二〇〇五年

社会経済史学 第七〇巻第六号

二〇〇五年

西洋史学 第二三四号

二〇〇九年

大阪外国語大学『日本とドイツ(2)』

一九八六年

岩波書店

一九九九年

(一九九三年の歴史学界回顧と展望)

「現代——ドイツ——」

(エッセイ)

「科学技術信仰の破局——オールドー自由主義とナチズム——」

史学雑誌 第一〇三巻第五号

一九九四年

創文 第四一七号

二〇〇〇年